



新春

泉山長老
俊朝

京都第一日赤だより



人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

新春号

2018年1月発行

vol.

67

Contents

看護フォーラム 開催報告	2,3
読売健康講座 開催報告	4
がん診療連携ワークショップ 開催報告	5
形成外科からのお知らせ	6
腎臓病料理教室 開催報告	7
お知らせ	8

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

旧年中は、多くの患者さんを紹介していただき、また、急性期治療後は転院による入院加療や逆紹介による外来診療など、多大なご協力・支援をいただき心より感謝致します。

さて、今年は、診療報酬・介護報酬の同時改定、地域医療構想の策定など大変な当たり年になります。特に、高齢者医療のニーズが増していく中、急性期から慢性期へ効率的な医療・介護システムの構築が課題です。効率的なシステムについては、多くの医療機関があり、患者さんの受療行動が複雑な京都市内

において、お役人の絵にかいたようには進まないのが実情です。

しかし、患者さんの病歴や投薬内容などの基本情報が、常に患者さんとともにある（移動）とすれば、どの医療機関に受診しても、外来・入院業務の軽減、医療安全上のリスク軽減などに役立つことは間違いありません。また、事前指示書もあれば、急変時や終末期において、人それぞれの希望や物語に応じた医療を行うことが容易くなります。

医療情報の共有化をできるだけ進め、地域全体でのチーム医療を促進していければと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

院長 池田 栄人

第4回

開催報告 看護フォーラム



看護副部長
中島聡子

【テーマ】心不全患者の療養支援

～多様化する心不全患者の在宅療養～

【目的】病院と地域との連携強化による
患者QOLの維持、向上と多職種交流

13:10～14:00 【第一部】心不全患者の在宅管理のポイント

①心不全とは ②当院の現状 ③在宅でのHint&Topic
[発表者] 沢田 尚久 京都第一赤十字病院 循環器科部長

14:00～14:40 【第二部】心不全患者の退院支援

[発表者] 中上 藍 慢性心不全看護認定看護師

15:10～16:00 【第三部】懇親会

10月28日(土)、京都第一赤十字病院多目的ホールにおいて第4回看護フォーラムを開催することができました。院内、院外を合わせて140名もの参加があり、短い時間ではありましたが、大変有意義な時間を過ごすことができました。

今回は「心不全患者の療養支援 ～多様化する心不全患者の在宅療養～」というテーマで行い、第一部は、当院循環器部長 沢田尚久医師より「心不全患者の在宅管理のポイント～①心不全とは ②当院の現状 ③在宅でHint & Topic」をご講義頂きました。終了後のアンケートでは「具体的でよく理解できた」「これからの在宅医療に活用できる」という感想を頂きました。心不全は末期から終末期の判断が難しい疾患ですが、心不全緩和ケアの課題についても言及され、医療者の介入・支援のあり方を見直すよい機会となりました。がんの疾患軌跡とは違い、終末期判断が難しいからこそ、アドバンスケアプランニング(ACP: Advance Care Planning)の重要性も感じました。地域との連携の中で、よりよいエンド・オブ・ライフケアに繋げていけたらと思います。

第二部は、当院慢性心不全看護認定看護師 中上藍より「心不全患者の退院支援」について報告させて頂きました。高齢化が加速する中、様々な疾患とともに、心不全を併せ持つケースが増加しています。来院するタイミング、入院中の経過、退院後注意すべき事、など情報共有を綿密に図ることが増悪予防対策になり、ひいては患者さんのQOLの向上につながるのだと改めて学びました。

懇親会では短い時間ではありましたが、軽食をとりながら和やかな雰囲気の中、これからの連携について意見交換することができました。このような機会を通じて顔の見える関係づくりに少しでも近づくことができたように感じ、大変嬉しく思っております。

できる限り住み慣れた町、住み慣れた家で在宅医療が続けられることが願われます。在宅から入院、そしてまた在宅への繋がりが、スムーズに行くよう努めてまいりたいと思います。急性期病院である当院にできること、やるべきことの課題はまだ山積しておりますが、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

読売健康講座

ピロリ菌除菌と胃酸コントロールで健康に生きる
～食道炎から胃潰瘍・胃がんまで～

(大阪よみうり文化センター、京都第一赤十字病院他共催、読売新聞大阪本社後援)



2017年11月23日メルパルク京都で開催され、当院の吉田憲正 副院長・消化器センター長から酸関連疾患に関する最近のトピックスが講演されました。

①日本で増加している逆流性食道炎には、機能的病変と器質的病変があるが、いずれもPPIが第一選択薬であること。

②高齢化社会では、NSAIDやアスピリンなどの抗血栓薬による出血性消化管粘膜傷害が増加しているが、酸分泌抑制薬などの抗潰瘍薬での予防、治療が重要であること。

③H.pylori 関連の胃潰瘍や胃がんの予防に

は、若年者除菌が推奨されるが、高齢者における乳幼児への経口感染阻止やNSAID/アスピリン潰瘍の発生予防のためには、高齢者除菌が重要であること。

④除菌後も長期間胃がん発生がみられるため、除菌後も定期的内視鏡検査が必要であることなどが強調されました。講演後200人をこえる参加者から多くの質問が寄せられ、日本人に多い食道/胃疾患への関心の高さがうかがえました。今後も高齢化社会で増加する疾患の啓蒙と病診連携推進のため、各種の健康講座を共催していきたいと考えています。



緩和ケア内科部長
上田和茂

副院長・がん診療推進室長
吉田憲正

12月7日、“包括的がん診療を考える—緩和ケアを中心に—”をテーマにホテルグランヴィア京都にて開催し、病院の内外から合わせて152名の皆様にご参加いただきました。

セッション1は“がんのtrajectory(軌跡)とアドバンスケアプランニング”で、まず上田緩和ケア内科部長が、がんのtrajectoryの特性や予後の予測の考え方、PRO (patient reported outcome) を取り入れたACP (advance care planning ; 先々の治療や生活のことを、患者・家族と医療者が話し合うこと)、意思決定支援について概説しました。続いて小松外科医長が、消化器がん患者のtrajectoryのときどきに応じて、栄養療法を工夫することが予後にとって重要であることを講演しました。田中がん看護専門看護師からは、がんと診断された早期から緩和ケアチームが介入し、状態が比較的落ち着いている段階から、患者・家族と医療者とが患者の価値観を振り返りながら、今後の治療や生活のことを話し合うACPを行うことが、困難な意思決定を円滑に進めるために重要であることを事例を交えながら講演しました。

セッション2は、“地域における病診連携緩和ケア”で、まず内匠化学療法部長が、本院からがん患者がホスピス・緩和ケア病棟や在宅療養のために地域に移られている現状について報告しました。その上で、今後の課題として将来の療養のあり方について、早期からACPを取り入れた意思決定支援を行うことおよび拠点病院と在宅医療機関の連携では、早い段階からかかりつけ医との情報共有を図ることの必要性を指摘しました。続いてスギ薬局山ノ内店 管理薬剤師 氏内圭一先生が、在宅緩和ケアチームの一員としての薬剤師の日頃

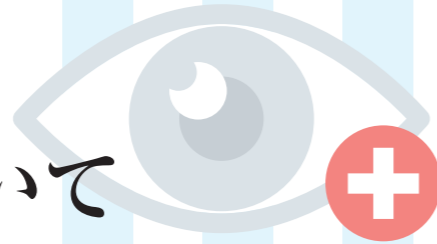


の奮闘ぶりを紹介され、薬局薬剤師が多職種に働きかけて在宅緩和ケアをコーディネートしていくことが大切であると述べられました。最後に、日本医師会の第5回赤ひげ大賞を受賞された大森医院 大森浩二先生が、地域のかかりつけ医としての多職種による医療・介護への取り組みや人生の最終段階として必ず訪れる最期をどう迎えていただくかをご自身の経験から講演され、とくに研修医に向けて人の生死を看取るにあたって、患者はもちろん介護されてきた家族の辛さに労いの気持ちをもって寄り添ってほしいと締めくくられました。

本ワークショップは、2008年7月から年2回のペースで開催されてきました。がん診療連携拠点病院の指定要件である地域の医療従事者を対象としたがん研修・合同カンファレンスの一環として、主に化学療法、緩和療法、放射線療法、手術療法、早期診断、地域連携をテーマに院内外の世話人会で企画しています。

なお、第20回から名称を東福寺がん診療連携ワークショップに改めて開催する予定ですので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しく御願致します。

当院で行っている 眼瞼下垂治療について



形成外科 部長

岩井 伸哉

眼瞼下垂症は、多彩な発症機序や病態があり、新生児から高齢者まで発症し得る疾患です。当院では、年齢や病態に応じてさまざまな手術を行います。また、局所麻酔での短期入院手術（二泊三日）では、クリニカルパスを利用して、安全に治療が受けられるよう努めております。下記に主な手術法について紹介させていただきます。

挙筋短縮術

挙筋前転術とも呼ばれ、経皮法、経結膜法などのアプローチの違いや、ミュラー筋の扱いなど、細かな差異はありますが、開瞼筋である眼瞼挙筋の機能低下に対する一般的な手術となります。当院においては、両側同時に施行する場合は、安全のためなるべく短期入院していただく事をお勧めしています。

眼瞼除皺術

眼瞼挙筋の機能が比較的保たれており、皮膚余剰が多い場合に選択される手術です。視野の妨げになっている余剰皮膚を切除します。切除量が少ない場合は、縫合線が重瞼に沿うようにしますが、切除量が多い場合は、眉毛のすぐ下の皮膚を切除する“眉毛下皮膚切除法”を行っています。眼瞼の皮膚は上にいくほど分厚くなっており、眉毛付近の皮膚を切除した方が、下の方の薄い皮膚を温存でき、“厚ぼったくない瞼”になるからです。

前頭筋つり上げ術

先天性眼瞼下垂など、眼瞼挙筋の機能がほとんど失われている場合に行われます。眼瞼の支持組織である瞼板と、前頭筋を連結させることにより、前頭筋の運動で開瞼できるようにする手術です。連結させる材料は、主には大腿筋膜あるいは糸が用いられます。小児の場合は全身麻酔での手術となりますので、入院していただくことになります。

その他

顔面神経麻痺に伴う眉毛下垂による偽性眼瞼下垂に対する眉毛挙上術、眼瞼内反症（逆まつ毛）に対する内反症手術なども行っています。特に小児の逆まつ毛は、内眼角の狭小下のため矯正困難となっている場合も多いため、内眼角形成術も合わせて行うことで、良好な結果を得ています。

治療を希望される患者様がいらっしゃいましたら、当科への紹介をご検討いただければ幸いです



腎臓内科・栄養課共同企画 腎臓病料理教室開催!!



腎臓内科・腎不全科/副部長 藺村 和宏

2017年9月2日、キャリアールクッキングスクールにて腎臓病料理教室を開催しました。

対象は腎臓病の患者さんとそのご家族です。日本では末期腎不全の予備軍である慢性腎臓病（CKD）患者が増加し続けており、約1,330万人が治療介入が必要とされています。CKDの進行抑制には食塩制限を中心とする食事療法が非常に有効です。今回このイベントのコンセプトは①CKDの病態を学ぶ②料理の楽しさと減塩のコツを学ぶ③医療者と患者、患者同士の良好なコミュニケーションが得られるという3つです。

午後1時30分快晴の中、医療スタッフ含め計15名が参加いただきました。

まず医師からのCKDについての講義、森本管理栄養士から減塩食についての講義を行いました。その後調理実習です。みなさん料理の技量はさまざまでしたが、インストラクターの指導のもとワイワイ騒ぎながら、無事美味しい料理をつくることができました。患者さんのご意見としては、とても楽しく勉強になったというのと次回は和食がいい!の声を多くいただきました。次回来春3月に開催予定です。みなさんお待ちしております!!



目的 参加者がCKDについての病態生理を学習する。適切な塩分摂取を学び食事を含めた生活習慣を見直すきっかけとし、CKDの進行を抑制する。

【対象者】 京都第一赤十字病院腎臓内科へCKDで通院している患者の中で希望者（患者本人と家族含めて最大30名）

【日時】 2017年9月2日 午後1時30分から午後5時まで

【場所】 大和学園 ラ・キャリアールクッキングスクール

【担当事務局】 京都第一赤十字病院 腎臓内科・腎不全科 藺村和宏/栄養課 片木千景

スケジュール total 3時間

1. 医師の講義 CKDの病態について……………15分
2. 栄養士からの講義……………15分
3. 調理実習……………2時間30分

お知らせ Information

第3回 東福寺周産期カンファレンス

【日時】
平成30年3月8日(木) 18時30分～20時

【会場】
京都第一赤十字病院 管理棟5階 多目的ホール

※詳細は、別紙をご参照ください。

第17回 東福寺消化器フォーラム

【日時】
平成30年3月22日(木) 19時～21時

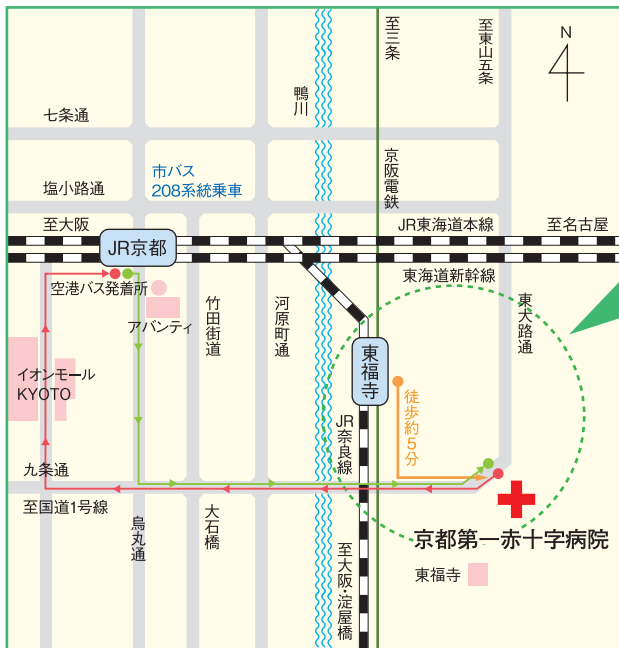
【会場】
ホテルグランヴィア京都

※詳細は、別紙をご参照ください。

時間外代表電話番号のお知らせ 平日17:00～翌8:30・土日祝のご連絡先 ▶ **075-561-4961**

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】… 京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】… 国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】… 竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

無料シャトルタクシー運行のご案内 [JR京都駅八条口⇄病院(地下鉄九条駅経由)]

	八条口発 病院行き	病院発 八条口行き
始発便	7:45 次発 8:10、以降30分間隔で運行	9:00 以降30分間隔で運行
最終便	16:10	16:00

※12:40八条口発の便は運行しておりません。 ※12:30病院発の便は運行しておりません。

※交通状況により時刻に遅れが生じる場合があります。
※運行は平日のみとなります。土・日・祝日等病院の休診日は運行いたしません。
※定員9名のため満員の場合は次の便をご利用ください。

京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280
FAX.075-533-1282